

## いたみセンター Q&A

Q1:急性痛、慢性痛で受診のしかたが違うと聞きました。急性痛と慢性痛はどのように分かりますか？

A1:急性痛は痛みの経過が3ヶ月未満、慢性痛は3ヶ月以上です。病名では分かれていません。

Q2:急性痛(痛みの経過が3ヶ月未満)の場合は、どのように受診したらいいですか？

A2:急性痛は、神経ブロック等による早期対応が重要なため、月～金の午前に受け入れています。予約は不要です。

なお、原則として、診療後には患者さんは紹介元に戻っていただくことをご理解ください。

Q3:慢性痛(痛みの経過が3ヶ月以上)の場合は、完全紹介・予約制と聞きました。どのように受診したらいいですか？

A3:慢性痛は、適切な治療を行うためには、多職種による身体面から心理面にわたる診察・病状評価がとても重要です。初診には2～3時間程度の時間がかかることから、木曜午前の「慢性痛初診外来」で週に1名の方を受け入れています。完全紹介・予約制となっており、いたみセンター外来受付で予約を受け付けています。今までの治療歴を把握することが重要なため、必ず紹介状(診療情報提供書)をお持ちください。

なお、原則として、診療後には患者さんは紹介元に戻っていただくことをご理解ください。

Q4:慢性痛初診の予約方法を教えてください。

A4:慢性痛初診の予約方法は3つあります。

- (1) いたみセンター外来受付に直接おこしてください。その際は紹介状をご持参ください。
- (2) いたみセンター外来受付にお電話をください。052-851-5511(代表)にて「いたみセンター外来受付へ」とお伝え下さい。紹介状の内容を確認後、予約をお取りします。
- (3) かかりつけ医から、当院の地域医療連携センターを通してお申し込みください。

Q5:慢性痛にはどのような診療を行っていますか？

A5:いたみセンターには、麻酔科医、精神科医、リハビリ医、看護師、理学療法士、臨床心理士などの多職種が参加して集学的なアプローチを行っています。毎週の多職種カンファレンスで個々の患者さんに合う治療(認知行動療法、運動療法・リハビリテーション、神経ブロック、薬物療法など)を検討し、各診療科と連携して診療を進めます。特に、最近の医学研究によって、慢性痛には認知行動療法や運動療法が有効なことがわかってきており、そのような治療法を含めて適切な治療を提案します。

なお、原則として、診療後には患者さんは紹介元に戻っていただくことをご理解ください。

Q6:医学教育や研究はどうなっていますか？

A6:いたみセンターは学部学生から医療従事者までを対象に、痛み診療のプロフェッショナルを養成する機関でもあります。また、痛み診療について最新の臨床研究も行っています。医学教育・研究にご協力のほどよろしくお願いたします。